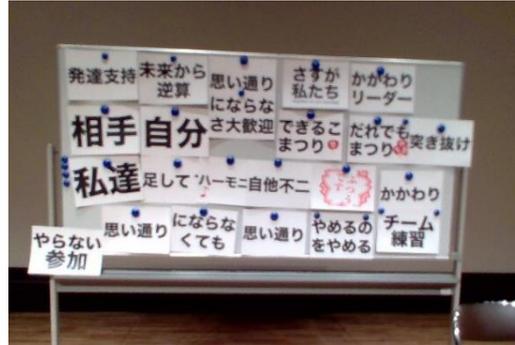


令和6年度
川崎市立小学校養護研究会 研修会

「養護教諭だからできる発達支持的な場のデザイン」

7月24日（水）@川崎市高津市民館
横浜国立大学教育学部 教授 有元 典文 氏

今年度は、夏季休業に入ってから研修会を行い106名が参加しました。「かかわり」の中で思い通りにならないとき、一緒にうまくやるためにはどのしたらよいか、思い通りにならないことを感じ、そこから気付くことをワークショップを通して学びました。



- ・発達支持的とは、教えるより気づかせる、やらせるよりはやりたくさせる、過去よりも未来志向、かかわって共に育つ。
- ・かかわりは思い通りにならなくて当たり前、うまくいかないときこそ学びの機会。相手を思い通りにはできない。思い通りにならないときには自分が変わる。やりにくい心を大歓迎し、みんなの気づきを集めて学びあう。
- ・養護教諭の専門性とは、「かかわり」。児童生徒、保護者、教員とかかわることが中心。養護教諭は、「かかわりリーダー」。日々の人とのかかわりが実は練習で、前向きに支えながらかかわっていく。

◎受講者の声◎

相手を自分の思い通りにするのではなく、自分がすべてを合わせるわけでもなく、「私達」の問題として捉えることで歩み寄り姿勢が生まれると感じました。日頃の人との関わり方を見直す機会となりました。

ワークショップ研修
(みんなで+型をつくろう)



ワークショップ研修
(みんなで☆型をつくろう)



今まで思い通りにならなかったことを考えてみると、自責しすぎたり相手に苛立ったりすることが多かったけれど、人間関係はすべて自分と相手の共同作業なのだ改めて分かりました。逆に言えばこちらの呼吸を見ようとする気のない人とうまくいかないのは当たり前だと思ったし、「私たち」の社会で考えられる自分でいたいと思いました。

ワークショップというかたちの研修は初めてで、体を動かしたりコミュニケーションを取ったりし、その中で自分自身を振り返る良いきっかけとなりました。